



空き家対策の推進について

Q 空き家増加の取り組みは

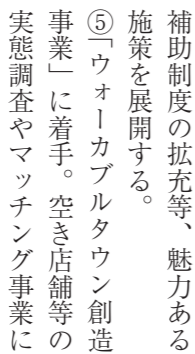
A 発生予防・適正管理・利活用に取り組む

答 (企画担当政策監)
②所有者の管理責任意識の向



問 空き家が増加する課題をどう認識しているか。
①発生予防の観点からどのような対策を講じるのか。
②生活安全の観点からどのような対応をとっているか。
③空き家バンク制度の成果と移住者を増やす対策について。
④中山道の空き家・店舗を有効活用した街づくりについて。
⑤空家等対策協議会での空家等の利活用等の協議について。

答 (町長)
①防災、防犯等の深刻化が懸念される。未然防止と解消には、その実情に応じた「発生予防」「適正管理」「利活用」に取り組む。
②所有者の管理責任意識の向上、新たな補助制度等を議論



答 (産業担当政策監)
③地域住民の通報等により、文書指導等で改善を促している。危険空き家の除却を促すため、特定空家等の認定基準を今年度中に制定する。
④8月末現在5軒が登録、地域おこし協力隊6名の内、4名が町内空き家物件に居住。移住者を増やすため、良質な登録物件の増加や移住したいと思える情報発信が重要。補助制度の拡充等、魅力ある施策を展開する。
⑤「ウォークアブルタウン創造事業」に着手。空き店舗等の実態調査やマッチング事業に取り組む。愛知川駅の機能強化、観光拠点等のネットワーク化により、町内の周遊度を高め賑わいのある街中の創出に取り組む。
⑥7月の第1回協議会で、空き家の現状と課題を共有。

答 (企画担当政策監)
②防災訓練の機会を活用し町

答 (町長)
①コロナ禍という新たな環境下で避難所運営を行うと共に、住民の生命・身体を守るため必要がある場合躊躇することなく避難指示等を発令する。

問 災害に強いまちづくりの推進(水害時の行動・避難情報の伝達)について。
①7月の九州豪雨に対する町としての認識は。
②防災訓練で避難情報伝達や連携の推進は。
③ハザードマップの周知と活用方法の啓発は。
④戸別受信機デジタル化に対応する機器更新の進捗状況は。
⑤行政は「共助」の意識付けをどうしているか。
⑥独居や高齢者等「災害弱者」世帯の避難に対する対応は。

答 (福祉担当政策監)
⑥避難行動要支援者支援制度に基づき、災害発生時の支援を希望される方から要支援者登録申請を受け付け個別調書を作成している。自治会長や民生委員、消防署などへ必要な情報を提供し、有事の際に連携した対応が取れるようにしている。

答 (福祉担当政策監)
⑥避難行動要支援者支援制度に基づき、災害発生時の支援を希望される方から要支援者登録申請を受け付け個別調書を作成している。自治会長や民生委員、消防署などへ必要な情報を提供し、有事の際に連携した対応が取れるようにしている。

の情報発信内容の周知、自治会内の連携強化を図る。
③「防災ガイドブック」は、今年度浸水想定範囲等の見直しや感染対策を加えた改訂を行い、全戸配布の上、各自治会等での防災訓練や出前講座を通じて周知していく。
④現在、機器の製造、近畿総合通信局との周波数帯調整、戸別受信機の配布方法の調整等実施している。11月を目途に戸別受信機の交換作業を開始し、2月完了の日程で整備を進めている。
⑤「自らの地域は自らが守る」という「共助」に対する意識の向上に向け、各自治会の防災訓練への職員派遣、防災研修、出前講座等を通じて、地域の防災力強化を支援する。



おなかの赤ちゃんにも支援策を

Q コロナ禍の中、おなかの赤ちゃんにも特別給付金を

A 妊婦とおなかの赤ちゃんを支えるため、給付金を支給

答 (町長)
長期化するこのコロナ禍の
今回の特別給付金の対象にならない、令和2年度に生まれるおなかの赤ちゃんも、町独自の特別給付金の対象となるよう願っています。
この感染症の流行は、結婚・妊娠・出産・子育ての皆さんも多大なご負担を与えており、当町の宝である子どもを、安心して生み育てる環境を整えることの重要性を感じている。

問 今回の新型コロナウイルス感染症において、国・県・そして町独自の対策や、各種各方面に支援策を示され実行された。しかしながらこのコロナ禍で困窮されている人はたくさんおられ、その中でもおなかに赤ちゃんを抱えている妊婦さん、とりわけおなかの赤ちゃんには今回の特別給付金は支給されていない。
この感染症の流行は、結婚・妊娠・出産・子育ての皆さんも多大なご負担を与えており、当町の宝である子どもを、安心して生み育てる環境を整えることの重要性を感じている。

問 今回の新型コロナウイルス感染症において、国・県・そして町独自の対策や、各種各方面に支援策を示され実行された。しかしながらこのコロナ禍で困窮されている人はたくさんおられ、その中でもおなかに赤ちゃんを抱えている妊婦さん、とりわけおなかの赤ちゃんには今回の特別給付金は支給されていない。
この感染症の流行は、結婚・妊娠・出産・子育ての皆さんも多大なご負担を与えており、当町の宝である子どもを、安心して生み育てる環境を整えることの重要性を感じている。

答 (まちづくり協働課長)
地域住民の方が、自ら学び、人々と交流し、主体的に活動展開する拠点として活用出来ることをねらいとしている。本年6月に企画運営委員会でイベントや企画を議論していただいている。

問 ゆめまちテラスえちの、ガイドラインとユニバーサルデザイン化について。
ゆめまちテラスえちのキーワードである「居場所」については、どの様に実現していくのか。

中で、経済的にもより負担を強いられている、妊婦とおなかの赤ちゃんを支えるため、給付金等の支援策を実施していきたいと考えている。
(9月議会最終日に、おなかの赤ちゃんに町独自の特別給付金11万円が支給されること が決定。令和2年4月28日から令和3年3月31日生)



答 (まちづくり協働課長)
来館者が安全安心に施設を利用できる環境を確保することは重要であるが、文化財指定に伴う一定の制限があること等を踏まえ、職員、スタッフによる利用者のサポートをすることで対応する。

問 ユニバーサルデザイン の、観点からも2階の活用には、エレベーターの設置が不可欠と考えるが、町の考えはいかがか。
答 (まちづくり協働課長)
仮にエレベーターを設置す

問 もっと早期にガイドライン策定は行わなければならないと考えるが町の見解を尋ねる。
答 (まちづくり協働課長)
本来であれば、かかる議論は早期に行うべきだが、今般のコロナ禍により、委員会の設置・開催が6月となった。

問 ユニバーサルデザインとは性別、人種、障がい、能力に関係なく、誰でもが最大限利用できることを目指すもの。
*ユニバーサルデザインとは性別、人種、障がい、能力に関係なく、誰でもが最大限利用できることを目指すもの。
ゆめまちテラスえち 屋外の階段

答 (まちづくり協働課長)
2階に上がる手段は、屋外の階段に昇降機を検討する。また、建物の裏側を身体障害者用と兼ねた臨時の駐車スペースとして確保している。一層、利用しやすい施設に進めていく。

問 すぐに出来るユニバーサルデザインや、バリアフリー化は早急に着手していただきたい。
答 (まちづくり協働課長)
2階に上がる手段は、屋外の階段に昇降機を検討する。また、建物の裏側を身体障害者用と兼ねた臨時の駐車スペースとして確保している。一層、利用しやすい施設に進めていく。